

「ポッドキャストと行くフランス旅行！」
« Je vais en France avec le podcast ! »
大阪府立大学提供のポッドキャストによる多言語教材について

TAKAGAKI Y u m i
高垣 由美

大阪府立大学 Université Préfectorale d'Osaka
takagaki?lc.osakafu-u.ac.jp

1. プロジェクト全体の概要

ポッドキャストという新しい学習ツールの可能性を追求した『大阪府立大学初級フランス語講座：ポッドキャストと行くフランス旅行！』（制作：高垣由美・村田京子）が2007年4月からインターネット配信されている。これは大阪府立大学総合教育研究機構「プロジェクト型研究支援事業」（研究代表：清原文代）の一部として制作されたものである。外国語教材のインターネット配信はすでに多く行なわれているが、現時点では大学が配信する教材で、複数の言語がそろっているものはまだ多くなく、しかもポッドキャストを利用している点で、本プロジェクトは先駆的な試みであると自負している。

2. ポッドキャストと外国語学習

本教材を紹介する前に、ポッドキャストというメディアの特徴を述べる。

ポッドキャストとは、インターネット放送の一種であるが、従来のインターネット放送と異なる点はいくつかある。

- ホームページ: <http://www.las.osakafu-u.ac.jp/podcast-lang/fr/travel/index.html>
- ブログ: (パソコン用) <http://www.las.osakafu-u.ac.jp/podcast-lang/cgi-bin/fr/sb.cgi>
(携帯電話用) <http://www.las.osakafu-u.ac.jp/podcast-lang/cgi-bin/fr/mb.cgi>
- iTunes 用 url: <http://www.las.osakafu-u.ac.jp/podcast-lang/fr/travel/rss.xml>
- プロジェクト全体のホームページ:
<http://www.las.osakafu-u.ac.jp/podcast-lang/travel/index.html>

- 1) コンピュータで受信した音声ファイルを、ハードディスクに保存するため、手元に音声ファイルが残り、いつでもパソコンで聞ける。
- 2) 一旦登録すれば、更新がないか定期的にチェックし、更新があれば新しい音声自動的にダウンロードされ、一々教材をダウンロードする手間がない。(インターネットに接続していて、iTunesなどの受信用ソフトウェアが起動しているという条件が必要。)
- 3) iPodなどの携帯用デジタル音楽プレーヤーに、パソコンから音声を転送でき、通学や通勤の合間に容易に聞ける。
- 4) 音声と同時に2000字までのテキストを配信でき、iTunes上や、携帯用デジタル音楽プレーヤーの液晶画面上で見られる。また(コンピュータ上でしか見られないが)pdfファイルも同時に配信できる。

以上のような特徴は外国語学習の手段として有利に働く。なぜなら「日々の継続的な学習が欠かせない外国語学習と、一旦登録すれば自動的に継続配信されるポッドキャストとの相性が非常によい」(清原 2006)からであり、また携帯用デジタル音楽プレーヤーに転送して持ち運べるため、思い立った時に隙間の時間を利用してきわめて手軽に、しかも文字つきで学習できるからである。

3. 本教材の特徴

本教材『ポッドキャストと行くフランス旅行!』は、以下のような6つの特徴を持つ。

特徴その1:旅行会話

日本人学生が1-2週間フランスを旅行するという設定で、例えば、ホテルのチェックイン、両替、道を尋ねる、買い物、レストランの予約、チケットを買うなど、旅先で遭遇するであろう場面を対話という形で提示している。また、聞き取れない言葉の意味を尋ねるなど、旅行に限らず学習者にとって必須と思われる表現も入れている。すべて書き下ろしである。

特徴その2:シャッフルして聞く

ポッドキャストは、iPodなどの携帯用デジタル音楽プレーヤーに転送して聞くことが多い。この携帯用デジタル音楽プレーヤーの大きな特徴は、シャッフルして聞けることである。30の場面のうち、1, 2場面だけを聞く、または順番をバラバラにして(シャッフルして)して聞くと新鮮味がある。固定された順序では飽きがかかるが、次に何が出てくるか分からない聞き方では飽きにくい。

このようにシャッフルして聞かれることを前提として作られている本教材では、

各場面には順序が無く、それぞれが独立していて、旅行の中で典型的に出会うシーンが、時間に限定されない1場面完結の形で提供されている。全体のストーリーや登場人物に一貫性はない。既存の教材によくある「物語」は、一度やると飽きてしまうのだが、独立したシーンが前後の脈絡なく次々と展開する形で聞くことにより、これまでの学習ツールにはなかった新鮮味を作り出せる。

特徴その3: 複数言語対応

本プロジェクトの教材はフランス語版以外に、ドイツ語版・中国語版・韓国語版・英語版がある。教材は言語ごとに独立して制作したのではなく、多言語チームでの共同作業の成果である。異なった言語の教員が相互チェックを行い、グループ全体ですべての場면을1つ1つ吟味して、ある程度の統一性を持たせており、5言語でほぼ同じ場面での会話を作っている。いかなる場面を設定するかに関しては、筆者個人としては、ヨーロッパ共通参照枠が参考になったと思っている。

その一方で、国や言語ごとの特性も反映させるように努力した。このため、同じ場面、よく似た場面でも細部は5言語の間で微妙に異なっている。一例だけを挙げると、中国語版では、買い物の場面で値切る会話がある。「高すぎます。もっと安くしてください。」「2つ買うのでしたら、2割引にしてもいいです。」中国では(特に旅行者相手の店では)、法外な値段をつけられることが多いため、値切るという行為は、旅行会話では必須の学習内容だそうである。これに対してフランスでは、基本的に買い物は値札通りの価格で購入し、下手に値引きを頼むと品がないと見なされかねない。そこでフランス語版では、ストレートに値切る代わりに、学生割引を求める場面(第12課)や、空港のチェックインで荷物の超過料金を請求され免除を願う場面(第30課)を入れた。逆に中国語版には学生割引の場面はない。

特徴その4: 完全な初心者向け

既存のポッドキャストの言語学習教材は、初中級から中級以上の学習者向けが多い。これは(後で述べるような)トーク型の番組では、完全な初心者向けの内容が難しいからかもしれない。本プロジェクトは、従来とは異なったレベルの、全くの初心者を対象に制作しているが、それを可能にしているのが次の特徴その5である。

特徴その5: 解説 pdf ファイル付きで体系的学習

会話をまる覚えしなさいといっても、初級レベルの成人学習者には難しいため、解説があつて学べるほうがよい。ところが現在のところ、文字による詳しい解説を提供しているポッドキャスト教材はまだ少ない。本教材では音声と同時に、A4サイズで各課15ページ程度の解説 pdf ファイルを配信している。音声部分のクリプトと語義の記述に加えて、文法、発音、綴り字、発話行為、文化的背景、関連語

彙などの解説を載せている。音声教材部分では現れていない文法事項の説明も入れているため、通常初級文法として取り上げられる範囲をほぼカバーしている。また、様々な documents authentiques も入れた écrit の練習問題も入れている。例えば、入国カードの書き方、地下鉄の定期 carte orange の買い方、ツアーへの申し込み、時刻表の読み方などである。この解説 pdf ファイルのおかげで、総合的学習が可能になり、聞き流すうちに自然に覚えるだけでなく、もっと体系的に学びたい学習者向けの要求も満たすようにできている。

特徴その6: ブログの設置

ポッドキャストは一方通行なメディアである。それを補い、学習者からのフィードバックを受け、学習者相互の交流を可能にするために、この教材のブログを設置した。ソフトは Serene Bach を利用して大学のサーバーで管理している。学習者は制作者の書いた記事にコメントを付けるという形で、自分の意見を表明できる。また、解説プリントの課題に基づいて、自分で書いた自由作文を投稿することもできる。(ただしコメントは管理者の許可制。)

4. 教材開発のポイント

以上のような特徴をもった本教材は、一言で言うと「コマーシャル感覚で聞く教材」を目指している。各場面は短く、台詞だけなら最短の場面で10秒、最長でも30秒である。フランスで実際に録音した効果音を挿入し、テーマ音楽も入れてあるのは、コマーシャル的な要素を重視したためである。その意図は、本プロジェクトの代表者の以下の言葉に集約されている。「短いものを繰り返して聞く、何度もCMを耳にしている内に自然とその中のフレーズや歌を覚えて口ずさむことがある。そのような聞き方をするポッドキャスト外国語学習番組の作り方があっていいのではないか？」(清原 2006)

5. ポッドキャストの問題点?!

ポッドキャスト番組の問題点は、「聞く人の時間を固定化させる」(江原 2006)という点である。文字情報は流し読みができ、必要な部分や重要な箇所だけを読むことができる。しかし、ポッドキャストで10分の番組を聞こうと思ったら、基本的に10分かかってしまい、最初から最後までじっと聞くことになる。この「聞く人の時間を固定化させる」点が、せっかちな現代人向けのメディアとしては、大きな弱点となりうる。早送り、スキップをしながら必要な箇所、面白そうなところで止まり、そこから再生するといった、CDやカセットテープでは簡単にできたことが、携帯音楽プレーヤーで聞くポッドキャスト番組の場合は、(不可能ではないにしても)あまり得意ではなく、この点では旧来の学習ツールに軍配があがる。

しかし外国語学習番組では、この「欠点」を逆手にとれる。この場合「コマーシャル感覚で聞く教材」であることが大切になる。コマーシャルを選んで聞く人はいない。特に聞きたいと思わなくても、繰り返し、しかも最初から最後まで聞かされるのである。受け手に選択の余地なく、とにかく一方的に聞かされ、何度も耳にしているうちに、自然と言葉を覚えるというのが、コマーシャル感覚で聞くことであり、本教材が前提としている学習方法である。

6. 外国語学習番組の2つの方向性

清原 (2006) によると、ポッドキャストによる外国語学習番組には2つの方向性がある。

第一の方向は「理解するための番組」である。現在ポッドキャストで配信されている外国語学習番組の主流となっている、トーク番組がこれにあたる。これは日本語を媒介として、きちんと理解するための解説がついた番組である。ただし、同じく理解するための番組に分類できるNHKラジオ語学講座などと違って、ポッドキャストでは放送時間にしばられない、録画録音の手間がない、どこへでも持ち歩けるという利点加わる。

第二の方向は「繰り返し聞くための番組」であり、これが本教材のめざしたところでもある。成人の学習者の落とし穴として、理解できたことに安心してしまい、それを身に付けるための反復練習を怠りがちなことがある。「理解するための番組」は、反復して聞くという用途にはあまり向かない。解説やトークを一旦聞いて理解した後では、何度も繰り返して聞く気にはなりにくい。繰り返して聞くには、短くて独立した場面が前後の脈絡なく現れる、コマーシャル感覚の番組が適している。

「聞く人の時間を固定化させる」ポッドキャストを使って、「コマーシャル感覚で」「繰り返し聞くための番組」をめざしたのが、本教材『ポッドキャストと行くフランス旅行！』である。

参考文献

清原文代 (2006) 「ポッドキャストで中国語」『中国文献情報処理研究会』第7号
好文出版

江原顕雄 (2006/9/5) 「個人が“放送”できるポッドキャストって？」

<<http://www.atmarket.co.jp/fnetwork/rensai/5minpodcast/05.html>>

Franc-parler /Podcasts : mode d'emploi <<http://www.francparler.org/fiches/podcasts1.htm>>

Franc-parler /Créer un blog <http://www.francparler.org/fiches/creer_blog.htm>